

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立貫江田幼稚園

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

【現状と課題】

- 本園の子どもたちは、自分の好きなことや興味のあることに根気よく取り組む姿が多く見られる一方で、自分の思いをなかなか出しにくく、遠慮したり思いを飲み込んでしまう姿が見られる。5歳児は、様々な遊びに挑戦したり、遊びを意欲的に広げたりする楽しさを味わっているが、大人の目を気にして、したいことを一つずつ確認しないと不安になるとという課題がある。
- 友達との関わりにおいて、5歳児は、友達と協力し合って活動したり、年下の友達にも意欲的に関わろうとしているが、思いを友達よりは先生に伝えることが多く、友達同士の関係を深めることが課題である。
- 幼稚園生活が子どもにとって安全で安心できるものとなるように早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的習慣を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう家庭との連携を深めていくことが必要である。家庭でも継続できるような指導方法の工夫が課題である。

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人のふれあいを大切にしている」の項目について、肯定的回答の割合を 95 %以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の項目で「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。
- 保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の幼稚園運営の全体を通して、目標達成に向けた3つの視点において、次の成果が見られた。

●「安心・安全な教育の推進」について

- ・こども園に移行したことで、園児数・職員数が増え、長時間園で過ごす子どもも増えたことで、安全面について職員間で協議し、教職員の配置や過ごす場所などについて検討した。非常時における行動については、小学校と避難場所や避難方法について話し合った。
- ・教師が幼児一人一人の思いを受け止めながら個別に支援したり、複数の教職員の目で子どもの様子を見たことで、情報共有や支援方法について話し合うことができた。
- ・友達と一緒に過ごす楽しさを味わえるような活動を教師が意識して取り入れることで、互いに声を掛け合ったり励まし合ったりして友達を大切にする姿につながった。

●「未来を切り拓く学力・体力の向上」について

- ・就学前教育カリキュラムをもとに月案、週案を立案し、活動内容について複数担任で話し合い保育内容の充実を図ったことで、子ども同士で思いを出し合いながら協力して遊びをすすめたり、友達のことを大切に思い、一緒に関わることを楽しむ様子が見られた。
- ・毎月子どもの実態に即した保健指導を行ったことで、手洗いや歯磨きの習慣がついたり、栄養素への関心が高まったりなど、健康な生活への関心が高まった。

●「学びを支える教育環境の充実」について

- ・施設見学や職場体験など近隣の小中学校の児童・生徒との交流を実施し、親しみや憧れの気持ちをもった。
- ・地域コミュニティーセンターで歌を披露したり、更生保護女性会に絵本の読み聞かせ後作品展の参観を実施したりなど、子どもの成長を見てもらう機会をもち、保育内容を周知することができた。

アンケート結果では、全ての項目で肯定的回答の高い割合を得ることができた。

今年度の成果と課題を受けて、次年度以降も幼児理解に努め、教職員の資質向上と保育内容の充実を図る。

様式2

大阪市立貫江田幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた」の項目で「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 学校安全計画に基づき、安全指導や防災指導を行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 年7回以上、様々な状況を想定し、実施方法を工夫した避難訓練を実施する。 学期に1回、子どもと教職員で園内の安全点検を実施する。 保護者アンケート「遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 	A
取組内容②【2 豊かな心の育成】 互いを認め合う機会を保育に積極的に取り入れ、自己肯定感の向上に努める。	A
指標 月1回以上、異年齢交流を計画して取り組む。	
取組内容③【2 豊かな心の育成】 子どもが互いを認め合い一人一人を大切にするクラスづくりをする。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 1日1回以上、友達や教師の話に興味・関心をもって聞いたり自分の思いを話したりする機会をもつ。 学期に2回以上、幼稚園生活や遊びの楽しさに気付くような視覚的教材を保育に取り入れる。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校園の年度目標	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
幼稚園は、安全教育や防災教育の推進に努めている	100%	100%	100%	75%	80%	85%
友達のことを気にかけ、大切にするようになってきた	89%	96%	97%	58%	61%	67%
取組内容①						
	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
遊具や用具の安全な扱い方を考えて、遊ぶようになってきた	97%	100%	100%	53%	73%	67%

- ・4月（火災）、5月（火災）、6月（火災）、9月（地震・火災）、10月（防犯）、12月（火災）1月（地震・津波）、3月（火災）の計8回避難訓練を実施し、教職員一人一人がとるべき行動を考えた。毎回命の大切さや身を守るために行動を子どもと話し合った。6月には福島消防署員に訓練の様子を見ていただいた。子どもは消防車を見学し、興味をもつことができた。10月の防犯訓練では、教師の合図を聞いて小学校中庭に避難した。12月の訓練は、子どもにも教職員にも時間を知らせず実施し、とっさの時の行動を考えるきっかけになった。1月の訓練は、津波が来た想定で小学校の4階まで避難した。小学校との連携について、次年度以降の課題ができた。また、この訓練で防災ヘルメットを初めて子どもが使い、扱い方や保管方法について教職員間で検討した。3月の訓練は、2号認定子どもの保育時間に行い、子どもの避難経路や職員の連携の取り方について検討した。
- ・非常時用の「引き渡し証」を作成し、コドモンアプリで保護者に周知して引き渡し訓練を実施した。2号認定の子どもは引き渡す時間に幅があることをふまえ、小学校に避難した場合の引き渡しについて、小学校や地域とも今後検討を重ねていく。
- ・年齢や子どもの状態に応じてはさみの片づけ場所を工夫した。5歳児ははさみ立てを利用し、3・4歳児は状況に応じて安全な場所に保管している。
- ・2学期に子どもと教師で保育室内の危険な場所・安全な場所に顔マークをつけ、子どもが意識できるようにした。
- ・プール事故発生時初期対応研修を行い、事故発生時における対応について教職員間で共通理解を図った。
- ・自転車での通園も多く、交通ルールについて知ってはいるが、経験不足のため危機感をもてないという実態があるため、繰り返し保護者に伝えて啓発をしている。
- ・園外保育では事前に、各クラスで公共のマナーや守るべきルールについて話し合ったり、信号の絵本を見て交通ルールを確認したりすることで、園外でも安全に活動することができた。園外保育時の教職員の動き方について検討し、園外散歩で確認した。
- ・運動会に向けての活動では運動遊具の安全な使い方を、作品展に向けての活動では製作道具の安全な使い方について確認して繰り返し指導することで、安全に使うことができた。

取組内容②

- ・主な異年齢活動
 - ・4月…5歳児が3歳児と4歳児に身の回りの始末の仕方を教える
発育測定を手伝う（～6月）
 - ・5月…園外保育（鷺洲上公園）5歳児と4歳児、5歳児と3歳児のペアクラスで活動する
子どもの日の集いや誕生会に隣に座り一緒に参加する
こいのぼりを使ってのふれあい遊び
 - ・6月…園外保育（下水道科学館）5歳児と4歳児
 - ・7月…夏祭り
 - ・9月…全園児で体操をする。運動会の演技の見合いっこをする
 - ・10月…運動会の各学年の演技や競技の見せ合いっこ
園外保育（芋ほり・天王寺動物園）
 - ・11月…ペアクラスを変更し、園外散歩に行く
キッズフェスティバル見合いっこ（3学年グループで回る）
 - ・12月…もちつき（縦割りで活動）
お楽しみ会（感染症流行のため、各クラスで実施）
 - ・1月…園外保育（キッズプラザ）
 - ・2月…生活発表会（劇遊び、歌、楽器遊びの見合いっこ）、生活発表会ごっこ、お別れ会
 - ・3月…異年齢で、触れ合い遊びをする

※毎月…誕生会、誕生会の事前交流

- ・異年齢間交流は、教師だけではなく友達に認めてもらえることで自信をもち、更に意欲的になつたり、優しく接してもらうことで大切にされていることを感じ、他児にも優しく接することができるようになった。また自分の頑張ったことについて感想を教えてもらう機会が多くあったことで、自己肯定感が向上している様子が見られた。

取組内容③

- ・3歳児は、入園当初は不安が強かったため、園生活に慣れ安心感をもって遊べるように、子どもの思いを受け止めたり、教師が一緒に遊んだりして働きかけた。少しずつ自分の思いを出して遊ぶようになってきたことで、毎日、遊びの後に楽しかったことを話す時間をとり、教師が言葉を補ったりしながら教師や友達に知らせてきた。運動会や作品展に向けての活動の中で、自分が楽しんだ運動遊びや、つくったものを見たり聞いたりしてほしいという思いが出てきたので、遊びを知らせた次の日に一緒に運動遊具を使って遊ぶ時間や、つくった作品を一人ずつ紹介する時間をとった。発表会に向けての活動では、友達と一緒に劇遊びをしたことや、遊びに必要なものをつくったことを知らせたいという思いをそれぞれがもち、話をしていた。自分の思いを聞いてもらう喜びを感じる経験を積み重ねてきたことで、教師や友達の話を聞こうとする姿や、教師や友達の話を聞いて思ったことを話す姿が増えた。

行事にちなんだ絵本や手遊び歌の絵本を読み、幼稚園での遊びに期待や楽しさを感じられるようにした。絵本を見ることで、物語に親しみながら活動や遊びへの見通しをもち、楽しく遊ぶことにつながっていった。また、1学期の終わりには、今までの遊びの様子を撮った写真を掲示したり、3学期には劇遊びをしている様子の写真を掲示したりして、遊びを振り返る時間を設けた。同じ遊びの場に友達がいることや、友達と一緒に遊ぶ楽しさに気付くきっかけになっていた。

- ・4歳児は、入園当初は不安な様子が見られたため、好きな遊びを楽しむ中で教師が受け止めたり共感したりしながら、安心できるように働きかけたことで、友達の思いに気付いたり、自分なりに思いを教師に伝えようとしたりする姿が見られた。毎日クラスで振り返りを行うことで安心して思いを出し、表情も和らいできた。友達の話を聞いて興味をもつたり共感したりすることで、友達と関わるきっかけとなり、2学期は友達と関わって遊ぶ姿が増えた。運動会では、虫のリズム遊びをする中で、個々の表現を丁寧に認めたことで、自信をもってのびのびと活動し、友達の動きもよく見て認め合う様子が見られた。作品展に向けて、毎日の振り返りや他クラスとの見合いで自分の作品を喜んで紹介したり、友達の作品に関心をもつたりして、互いに認め合う経験を重ねた。

3学期は劇遊びの中で、絵本の登場人物になって友達となりきって楽しむ様子が見られた。また、遊ぶ中で自分の思いを出したり、友達に伝えたりしていた。活動を通して友達のいいところに気付き発言する姿を捉え、遊びの振り返りで「素敵探し」の時間を設けた。友達から素敵な所を言ってもらうことで喜び、嬉しそうな表情が見られた。認め合う機会を意図的に活動の中で取り入れることで、一人一人のいいところをこれまで以上に知ることができ、より認め合う姿につながった。

毎日、様々な絵本を教師と一緒に読む中で、登場人物の思いを知ったり、必要な言葉を知ったり真似たりすることで、園生活の中で相手の気持ちに気づくことにつながっている。

- ・5歳児は、毎日の振り返りの時間だけでなく、活動中でも思いや考えを伝え合う時間を多くとるように心がけた。視覚的に分かりやすく伝わるようにホワイトボードを利用した。遊ぶ中で、友達の気持ちに気づくように教師が仲立ちすることもあり、繰り返すことで友達の意見を聞く姿も見られるようになってきた。運動会では、チャレンジ遊びや演技をグループごとに見せ合ったり、演技の動画を見たりして、どこがよかつたかを伝え合う時間をつくった。作品展では、工夫した点を互いに伝え合う機会をもった。教師が一人一人を認めることで、振り返りの時間にも子どもから自然に友達を認める姿が増えた。また、ドキュメンテーションをつくり、子どもと一緒に遊びを振り返ったことで、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じていた。3学期は、楽器遊びの中で楽器

ごとにリズムを考えたり、みんなの前で発表したりして互いの考えを認め合いながら取り組んできた。決まったリズムも子どもたち一人一人が視覚的に分かりやすいように図にし、自分たちで自信をもって鳴らせるように進めてきた。劇遊びでは、親しんだ絵本の場面から自分たちで遊びたいところを相談しあったり、絵本にはない場面を想像したりして、イメージを共有して取り組んだ。学年同士で見合う時間を設けたり、頑張ったところや素敵なところを伝え合ったりしたことで、お互いの劇や歌により興味や関心をもつことにつながった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・津波発生時に避難する場所や避難経路を小学校と再検討する。

取り組み②

- ・行事に向けての異年齢交流をする時間が多かったので、日常的に異年齢の関りを意識していくよう保育を組み立てていく。

取り組み③

- ・引き続き友達や教師の話を聞いたり話したりする機会を設けていく。また、視覚的に友達と遊ぶ楽しさを感じられるような教材を考え、保育に生かす。

様式 2

大阪市立貫江田幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シートト）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。 ○保護者アンケート「子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【3 子ども教育の推進と質の向上】 友達と思いや考えを出し合いながら、意欲的に遊ぶための環境構成や指導方法を工夫する。	B
指標 · 週 1 回、保育の振り返りを行い、子どもの実態を基に週案を立案し、実践する。 · 月に 1 回以上、子どもの興味・関心に合わせた環境の再構成を行う。	B
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 様々な絵本やお話に親しむ機会をもつ。	A
指標 · 週 1 回以上、絵本の読み聞かせをする。 · 月 2 回以上絵本貸し出しを行い、家庭で絵本に親しむ機会をもつ。 · 園行事に絵本やお話に親しむ機会を取り入れる。 · 保護者アンケート「相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきた」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	A
取組内容③【5 健やかな体の育成】 子どもの実態を把握し、担任と養護教諭が継続して指導を行い、家庭との連携を図る。	B
指標 · 年 3 回以上、生活習慣調査を実施し、家庭での実態を把握する。 · 子どもの実態・発達に応じた保健指導を月 1 回以上実施する。 · 月 1 回以上保健だよりや掲示物等を活用し、保護者啓発及び家庭との連携を図る。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析						
学校園の年度目標	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
子どもは遊びの中において自分で考え行動するようになった	98%	100%	100%	70%	76%	77%
子どもは友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶことを楽しむようになった	84%	95%	95%	43%	58%	63%
子どもは手洗いやうがいを丁寧にするようになった	92%	94%	93%	62%	65%	63%

取組内容①

- ・週1回、学年で保育の打ち合わせを行い、子どもの育ちや今後の見通しなどを共有し、週案を立案して実践した。
- ・3歳児は、入園当初は不安が強かったので、安心して遊べるように家庭的な遊具を出したり、一緒に遊んだりしながら子どもの興味や関心を探っていった。園生活に慣れてくるにつれ、自分の思いを出せるようになってきたので、興味や関心に合わせて好きな遊びを見つけたり選んだりできる環境をつくった。担任間で保育の振り返りを行っていくことで、子どもたちの興味・関心の変化に合わせて環境設定を行った。また、行事ごとに環境を再構成していくこともしていった。劇に使うものを子どもたちが遊びやすい場所に置き、好きな遊びの際に遊べるようにしていた。そのため、子どもたちが親しんでいるもので安心して遊べる場につながっていった。
- ・4歳児は、好きな遊びを見つけて安心して遊べるように、担任間で話し合いながら子どもたちの興味・関心を示すものを見極めながら保育室の環境を整えた。1学期後半は、クラスで行き来しながら遊べるよう時間を設け、子どもの実態に合わせて、環境を再構成し、自分の思いを出しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにした。2学期以降も、子どもたちの興味・関心に合わせて環境設定を行ってきた。子どもたちが使いたい素材を準備し、発表会の中にも普段遊んでいる遊びを子どもたちと話しながら取り入れ、意欲的に遊べる環境を構成した。
- ・5歳児は、共通の目的をもって考えを出し合ったり、協力したり、役割分担しながら遊べるように環境を構成した。夏祭りや作品展では、試行錯誤しながら友達同士で遊びのルールを相談して決め、遊びを進める姿があった。そのため、子どもの思いを引き出せるように様々な素材を準備したり、子どもと一緒に探したりした。クラス間でも交流ができるように時間を設け、お互いの遊びを楽しめるようにした。3学期になり、劇遊びで使う道具や衣装を自分たちでつくれるように保育室に素材を準備したり、友達とイメージを共有しながらつくる場を設置したりした。また、保育室に楽器を置き、子どもたちがいつでも遊べる場をつくったことで、友達同士で教え合ったり、自分たちで演奏会をしたりと意欲的に遊べる場につながった。

取組内容②

	肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合		
	5月	10月	1月	5月	10月	1月
相手の話を聞こうとする気持ちが育ってきた	88%	99%	100%	49%	56%	55%

- ・各クラス、ほぼ毎日絵本の読み聞かせを行っている。年齢やクラスの実態に応じて、導入を工夫したことで、絵本を集中して聞く時間が長くなかった。
- ・「絵本の読み聞かせ」（福島区更生保護女性会）と「おはなしの会」（大阪市立福島図書館絵本ボランティア）を学期に1回ずつ実施した。
- ・子どもが季節や行事の本や、興味や関心をもっている絵本・図鑑を探しやすいうように、絵本の整理を行った。絵本貸し出しの際に、はじめは自分の知っている本を探して借りる子どもが多かったが、次第に目的をもって絵本を選ぶ子どもが増えた。友達と絵本や図鑑で気づいたことを共感して楽しむ姿が増えてきた。
- ・絵本貸し出しを1学期は2週間に1回、2学期以降は週1回実施している。保護者から借りてくれる絵本を楽しみにする声や貸し出しを延長してほしいという要望が増え、家庭で絵本に親しむ機会も増えてきた様子である。
- ・毎月の誕生会で、季節や行事にあった絵本の読み聞かせをし、絵本に親しむ機会をもった。
- ・行事への関心や期待が高まるように、絵本やペーパーサートを活用している。
- ・絵本に親しむにつれ、じっくりと絵本を見たり、気に入った絵本を何度も読み返したり、友達に内容を伝えたりする姿も増えた。

取組内容③

- ・保健指導を1学期に3回、2学期に5回、3学期は3回実施した。
3学期は1月に『あいうべ体操』を行い、園内の鏡を活用して体操を行うコーナーをつくった。幼児も友達同士で誘い合ってコーナーや保育室で毎日楽しみながら行っている。2月保健指導では4, 5歳児対象に、幼児の実態に合わせてプライベート-partsについての指導を行い、自他の心身を大切にできるように促した。3歳児にはよい姿勢で過ごす大切さについて指導を行った。
- ・保護者啓発として、保健だよりを毎月1回発行し、夏季休業中は、幼稚園でも取り組んでいた歯みがきを継続できるよう歯みがきカレンダーを発行した。2学期にはてくてくコラムを発行し、下肢の健康について知らせるとともに、歩くことの大切さを知らせた。
1学期終業式と2学期終業式には、保護者向けに講話を行い、仕上げみがきの重要性や睡眠の大切さについて啓発した。

次年度への改善点

取組内容①

- ・シフト勤務での保育の打ち合わせの持ち方を工夫する。
- ・意欲的に遊ぶことを楽しめるように、担任間や学年間で連携し、子どもの興味や関心に合わせた環境構成を行う。

取組内容②

- ・絵本の持ち帰りの日数を学期ごとに検討する。
- ・各クラスで子どもの興味・季節にあった絵本の整理を行う。

取組内容③

- ・担任との連携や保護者啓発を今後も続けて、健康的な生活習慣の形成についての意識を高めるための取り組みを行う。幼児の実態を把握し、発達段階に合った指導内容や教材を考える。
- ・保護者への啓発について、2号認定保護者が増えるため、HPやコドモンを活用する。

様式 2

大阪市立貫江田幼稚園 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シートト）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○保護者アンケート「幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」と回答する割合を年度当初より向上させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上に努める。 指標 ・年 7 回以上園内研修会を実施する。 ・年 4 回以上実践記録をとり、子どもの育ちや教育的意図をもった働きかけについて検討する。 ・学期に 1 回、就学前教育カリキュラム及び参考教育課程を参考に認定こども園の教育課程・年間計画を見直す。	B
取組内容②【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 幼稚園の取り組みを家庭や地域、他校種に発信するとともに、連携する。 指標 ・学期に 1 回以上、他校種と実施方法を工夫して交流し、連携を図る。 ・年 3 回、地域と実施方法を工夫して交流する。 ・月 1 2 回以上、ホームページを更新して、保育内容を広く発信する。 ・保育参観やドキュメンテーションなどを活用して、保護者に保育内容を発信し、理解を促す。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析																				
学校園の年度目標																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">肯定的な回答の割合</th> <th colspan="3">「そう思う」と回答した割合</th> </tr> <tr> <th>5月</th> <th>10月</th> <th>1月</th> <th>5月</th> <th>10月</th> <th>1月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている</td> <td>98%</td> <td>99%</td> <td>99%</td> <td>67%</td> <td>69%</td> <td>73%</td> </tr> </tbody> </table>		肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合			5月	10月	1月	5月	10月	1月	幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている	98%	99%	99%	67%	69%	73%
		肯定的な回答の割合			「そう思う」と回答した割合															
	5月	10月	1月	5月	10月	1月														
幼稚園は、地域の方々との関わりや幼小交流など、いろいろな人とのふれあいを大切にしている	98%	99%	99%	67%	69%	73%														

取組内容①

- ・大阪市立幼稚園研究会 2 ブロック研究部の『自分の思いを表現する楽しさを味わう子どもを育てる一かいたり、つくったりする中で一』という研究主題に基づき、6 月に指導要請を、10 月に園内研修支援を行った。研究討議や教育指導員の指導を通して、自分自身の保育を振り返ることができた。
- ・これまでに 5 クラスで園内研究保育を実施した。残り 1 クラスも 3 月中旬に園内研究保育を実施する予定である。
- ・5 月・6 月・7 月・10 月・12 月・2 月の計 6 回、実践記録をとり、自分の思いを表現している子どもの姿を読みとり、その要因や教師の教育的意図をもった働きかけ、環境、子どもの育ちについて検討した。毎回 3 学年の記録を検討したことで、子どもの姿を読みとる力や考察する力が身に付いてきている。

- ・長期休業を活用し、教育課程の見直しを行っている。令和6年度より、幼稚園型認定こども園に移行したことで、生活の流れや環境を見直し、再検討している。
- ・夏季休業中に、1学期の遊びのドキュメンテーションを作成した。「子どもの姿」「教師の教育的意図をもった働きかけ」「環境構成」をそれぞれ付箋に書いて教員間で検討したこと、子どもの育ちを多面的に捉えることができた。11月に、作品展までの遊びのドキュメンテーションを作成したこと、子どもの様子や遊びの経過を振り返ることができ、教師の資質向上につながった。
- ・シフト勤務のため、学年間や担任間で話し合う時間が限られているが、毎週、時間をつくって週案の打ち合わせや、保育の打ち合わせを行っている。
- ・教材研究を隨時行い、クラスの実態に合った遊びや活動を考え、教師自身でいろいろ試して教師間で共有することが資質向上につながっている。
- ・園内研修では、クラスの実態や時期に合わせて製作活動をしたり、楽器遊びをしたり、好きな遊びをしたり、クラスによって活動内容が異なり、いろいろな保育を見ることができたため、学びにつながった。

取組内容②

- ・毎週水曜日14時～15時に未就園児対象に園庭開放を実施している。2号認定の子どもや一時預かり事業参加の子どもが一緒に遊ぶ機会をつくっている。
- ・隣接小学校を訪問し、小学校に親しみをもてるようしている。6月に中庭のアジサイや池のコイやカメを見たり、遊具で遊んだりした。10月に校庭で運動会に向けての活動をした。12月には凧あげをし、2月には5歳児が図書室に行ったり、「わくわくスタート」で1年生に学校のことを教えてもらったりし期待に繋がった。また別の小学校で、図工授業を参観し興味・関心が高まった様子であった。
- ・職場体験で来た中学生と関わった。自己紹介を互いにして作品つくりと一緒にしたり、園庭で鬼ごっこをしたりとたくさん遊び、親しみをもつことができた。
- ・クラスだよりをホームページに載せている。ホームページの学校日誌の更新も積極的に行い、幼稚園教育について周知している。
- ・2号認定や一時預かり事業参加の子どもに対して、連絡事項やクラスの活動内容をホワイトボードで知らせている。
- ・夏季休業中や作品展に向けて作成したドキュメンテーションをもとに、保護者に活動の取り組みについて話し、本園の教育について周知した。
- ・5歳児が鶯洲コミュニティーセンターで、歌を披露した。「緊張したけど歌を聴いてもらって嬉しかった」と、聞いてもらう喜びを感じることができ、音楽会に期待をもつききっかけになった。
- ・5歳児は大阪市立幼稚園音楽会に向けて、隣接の小学校副校長先生に歌唱指導を受けた。喉の開け方、お腹からの声の出し方を教えていただき、音楽会では堂々と歌うことができた。作品展前日に作品を見に来てもらったときに音楽会の感想を聞いてもらう機会となった。生活発表会にも招待した。
- ・福島区更生保護女性会の方に絵本の会後、作品展を見ていただいた。自分の作品を積極的に紹介し、たくさん認めてもらった。また、音楽会の歌を披露したことで自信につながった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・園内研修の日程を年度初めに設定し、計画的に進めていく。できるだけたくさんの教職員が保育を見ることができるように、研修の時間を工夫し、実施できるようにする。

取組内容②

- ・来年度も小学校と連携し、早い時期に近隣の学校に訪問する。